



12時～16時 8回

16時～20時 13回

20時～24時 85回

3月27日08時から24時までの総回数は109回です。平常時にA点で観測される地震回数は、1カ月に20～30回程度です。なお、火山性微動は観測されていません。噴煙の状況は、現在夜間のため確認できません。今後火山活動に変化があった場合は、火山情報で随時お知らせします。

[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.16]

臨時火山情報 第1号

平成12年3月28日02時50分 室蘭地方気象台発表

火山名：有珠山

有珠山で火山性地震が増えています。

有珠山では、3月27日08時以降地震が増え始め、気象庁A点(大有珠山頂の南約2km)の地震計で観測された火山性地震の回数は、3月27日08時から24時まで109回です。

また、3月28日08時から01時まで57回、01時から02時まで106回となっています。

虻田町役場によると、洞爺湖温泉街で3月28日01時31分頃有珠山付近を震源とする有感地震が発生しました。

なお、火山性微動は観測されていません。噴煙の状況は、現在夜間のため確認できません。

今後火山活動に十分注意して下さい。

[『臨時火山情報 第1号』(平成12年3月28日02時50分 室蘭地方気象台)]

火山活動に関する正式な情報は、気象台が出す「火山観測情報」「臨時観測情報」「緊急火山情報」で、現在は火山活動に異常が発生し注意が必要な状態である「臨時-」が随時出されている。さらに、生命、身体にかかわる火山活動が発生した場合は「緊急-」が出されるので、火山周辺住民は注意が必要だ。[『有珠山-平成噴火とその記録-』室蘭民報社(2000/12),p.35]

### 03. 火山噴火予知連絡会議が、有珠山噴火の可能性と火山活動への警戒を指摘した。

火山噴火予知連絡会(以下：噴火予知連)拡大幹事会は、有珠山で発生している地震の震源は北西山腹の深さ3～4kmと推定されること、有珠山では地震活動が次第に活発化した後1日ないし数日の間に噴火した事例が多いことを指摘し、噴火が発生する可能性があり、火山活動に警戒が必要であるとした。[『2000年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.5]

同日16時から壮瞥町商工会館で開催された北海道防災会議火山対策専門委員会では、気象庁、噴火予知連及び国の関係者、さらに伊達市長、虻田町長及び壮瞥町長が出席し、

火山専門委員から現在の有珠山の状況が説明された。[『2000 年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.5]

#### 04. 室蘭地方気象台より緊急火山情報第 1 号が発表された。

気象庁は同日午前 11 時 10 分、「地震の規模や回数から切迫した状態にある」(小宮山学火山課長)として「緊急火山情報」を出し、警戒を強めるよう呼びかけた。[『毎日新聞』(2000/3/29 夕刊)]

噴火予知連拡大幹事会は、噴火前に出されることは異例である緊急火山情報により、「今後数日以内に噴火が発生する可能性が高くなっており、火山活動に対する警戒を強める必要がある」との見解を発表した。[『2000 年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.5]

28 日午前、東京・大手町の気象庁に火山噴火予知連絡会の幹事 10 人のうち会長の井田喜明東大地震研教授ら集まることのできる 8 人が駆けつけた。

27 日午前から頻繁になった有珠山の地震を重大視した気象庁が拡大幹事会を招集したからだ。

引き続き 29 日も開かれ、その見解を受けて同庁は同日午前 11 時 10 分、「生命や身体にかかわる火山活動が発生した場合」と定められた緊急火山情報を発表した。(中略)

緊急火山情報は雲仙・普賢岳の火砕流災害を教訓に 1993 年 5 月に制定されたが、「噴火前の火山が対象になったのは初めて」と同庁幹部。

噴火予知は難しく、普賢岳でも火砕流の発生は予知できなかった。

しかし、同庁幹部は「有珠山は周辺に民家が多い上、大規模な噴火を起こす“世界で最も危険な火山”の 1 つ。緊急性と、今回の地震活動が前回 77 年の噴火前と同一レベルに達したので発表に踏み切った」と説明する。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.39]

#### 05. 北屏風山や洞爺湖温泉～壮瞥温泉で相次いで地割れが確認された。

3 月 29 日から 30 日にかけて壮瞥町壮瞥温泉では震度 5 弱を 7 回観測するとともに、3 月 30 日午前には、地割れ等地殻変動が確認され、3 月 31 日に小有珠の亀裂や洞爺湖温泉の断層群、洞爺湖から虻田町に抜ける一般国道 230 号沿いに亀裂が確認された。[『平成 12 年(2000 年)有珠山噴火災害報告』北海道開発局(2001/6),p.10]

旧有珠火山観測所下のペンション前を通る湖畔道路の舗装面は、30 日 16 時には 20mm の右横ずれの断層を生じており、断層変位の計測中に発生した有感地震ではさらに 2mm 程度変位が進行した。翌 31 日午前 7 時過ぎには同じ地点で変位は 46mm に拡大していた。[宇井忠英 他「有珠山 2000 年噴火の推移」『有珠山 2000 年噴火と火山防災に関する総合的観測研究(平成 12 年度科学研究費補助金(特別研究促進費)研究成果報告書)』(2002/5),p.59]

北屏風山や洞爺湖温泉～壮瞥温泉では相次いで壮瞥温泉では相次いで地割れが確認され始め、西山麓の虻田町本町地区でも JR 室蘭本線のレールの湾曲や地割れが発生され始めた。[『2000年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.6]



写真 壮瞥地区で3月30日に発生した地割れ(提供：北海道立地質研究所)

## 2. 道路・交通機関への影響

### 01. 道央自動車道、国道230号などの一部が不通になった。

災害警備対策室を置く伊達署は29日、道警本部や室蘭署などの応援を得て499人体制で避難誘導や交通規制対策に当たった。

同日午後6時に全面通行止めになったのは国道が(1)453号伊達長和 大滝村清陵(37.1キ口)(2)37号虻田町入江 伊達長和(8キ口)(3)230号虻田町入江 留寿都村ルスツ(34.1キ口)の3路線。道道は豊浦洞爺線(13.4キ口)、洞爺虻田線(9.7キ口)、立香南久保内線(5.4キ口)洞爺公園洞爺線(16.5キ口)の各全線と、洞爺湖登別線の7.3キ口、洞爺湖公園線の4.9キ口区間など、計9路線。規制の起終点には、それぞれパトカーや警察バスなどを配置している。

[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』北海道(2000/12),p.40]

有珠山噴火に伴い、洞爺湖周辺の高速度道路の道央道の伊達から豊浦ICの間、国道では230号、37号及び453号が通行止め区画が設定された。[『2000年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.76]

[『平成12年(2000年)有珠山噴火1年の軌跡』北海道建設部(2001/7),p.37]によると、有珠山噴火に伴う道央自動車道・国道・道道の通行規制の変遷については以下のとおりである。

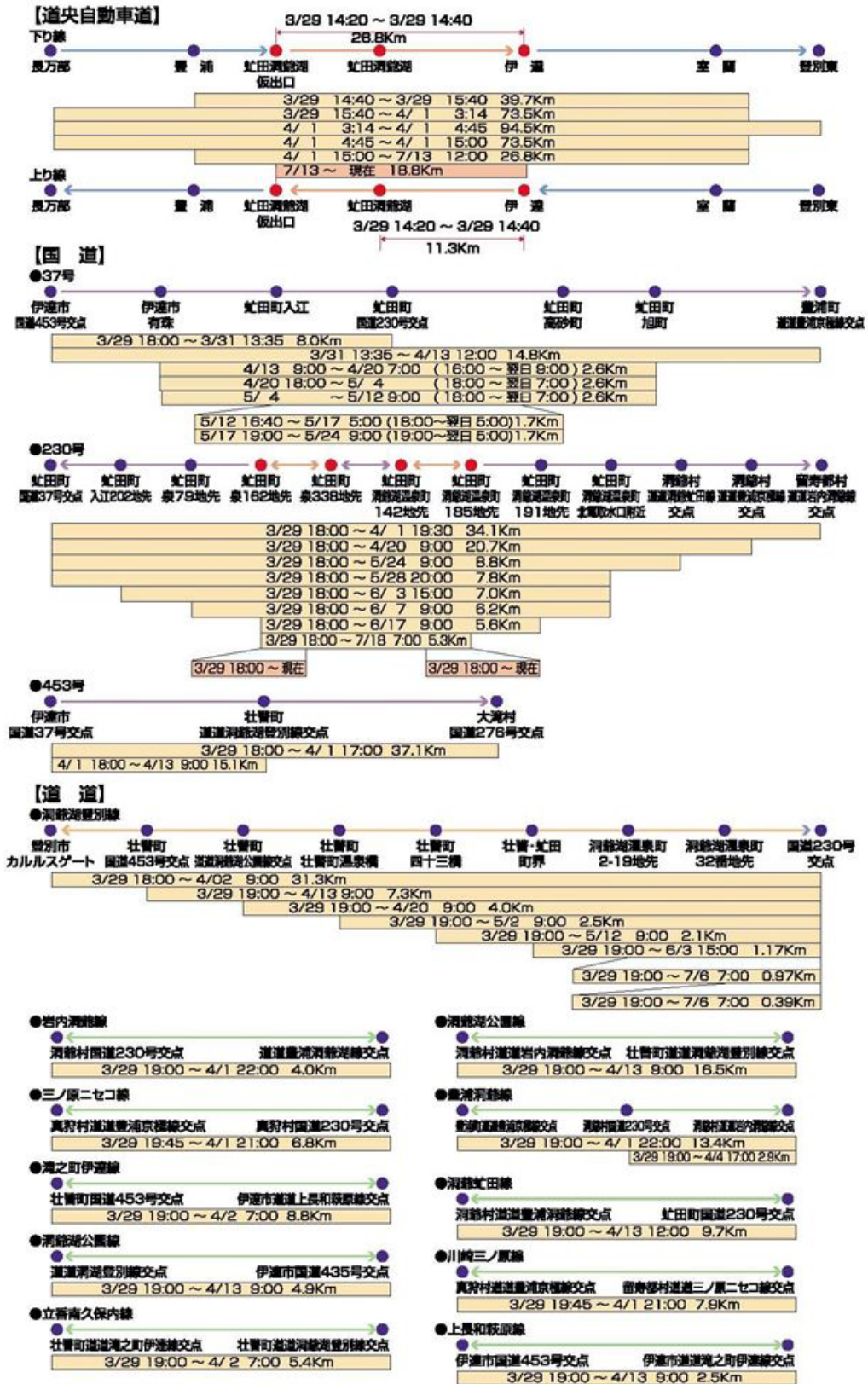
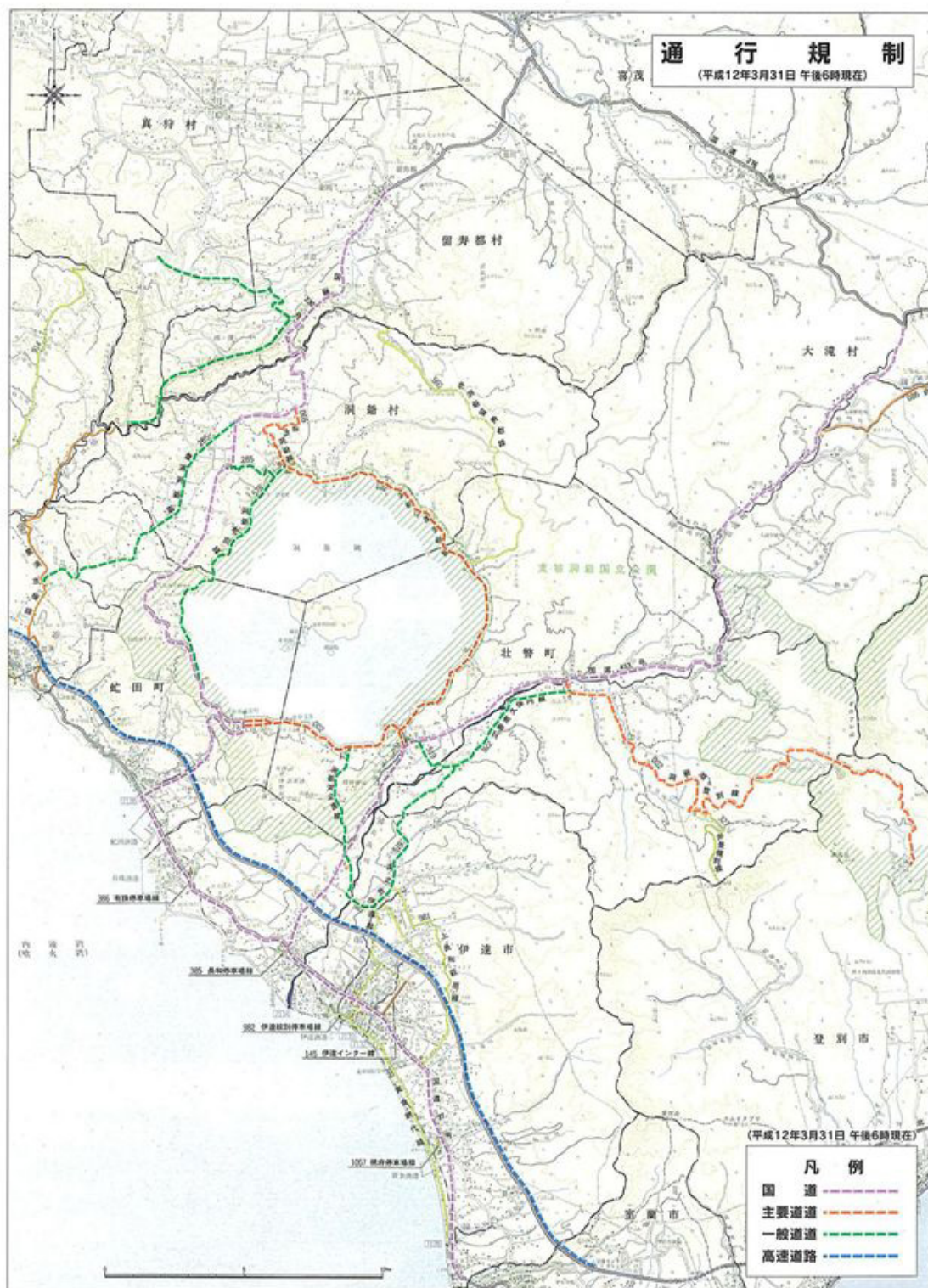


図 有珠山噴火に伴う通行規制変遷(提供：北海道)



「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得た同院発行の5万分の1の地形図の縮図複製を使用したものである。」

図 2000年有珠山噴火に伴う道路通行規制区間(提供：北海道)

02. 有珠山周辺の道道の定時パトロールを強化した。

室蘭土現(室蘭土木現業所)では、情報収集のほか、同土現洞爺出張所職員が同日午前9時から、有珠山周辺の道道のパトロールを開始。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.32]

03. 火山活動の影響を受け、JR 室蘭本線長万部～東室蘭間の運転が中止された。

JR 北海道は、29日午後5時22分に伊達市で起きた震度4の地震で、室蘭線大岸 黄金間で運転を見合わせ、線路の点検を行った結果、異常がないことを確認した。しかし、今後の地震などに備えて同線洞爺 伊達紋別間の運転を見合わせている。運転再開の見通しは立っていない。函館線う回で対応する。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.40]

有珠山で噴火の恐れが出ているため、札幌市などと本州を結ぶ物流の大動脈、JR 室蘭線が29日夕から寸断され、春の引っ越しシーズンピークを迎えた運送業者らは、代替の輸送手段確保に頭を痛めている。

有珠山南側の太平洋岸を走る室蘭本線。29日午後5時20分すぎに伊達で最初の震度4の火山性地震を観測した直後から、長万部 - 東室蘭間で上下線とも運転を見合わせた。運転再開のめどは立っていない。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.41]

29日午後5時22分、はじめての大きな揺れがこの地域を襲った。有珠山の南約8kmの伊達で震度4、東へ約4kmの壮瞥では震度5弱を記録する強い揺れである。JR 伊達紋別駅に設置している地震計も85ガルを示していた。この数値は列車の運行を見合わせる規制値に達しているため直ちに室蘭本線の長万部～黄金間にいる全列車を停止し、線路や施設の点検を開始、幸い異常は認められなかったが、この地震が火山性のものであるため、「お客様を運ぶべきか」との議論の末、この状況では安全輸送は確保できないと判断。4名のお客様を乗せたまま洞爺駅で停止していた豊浦発室蘭行 489D 普通列車は運転を打ち切り八雲に回送、このほか豊浦駅で停止していた隅田川貨物駅発札幌貨物ターミナル行 3061 貨物列車も洞爺駅で運転打ち切りとし、有珠駅～長和駅間で停止していた隅田川貨物駅発札幌貨物ターミナル行 3063 貨物列車のみ線路点検の後、運転を再開させたがこれ以後、地震と噴火の危険性のある長万部～東室蘭間は運転中止とした。[『有珠山噴火 鉄道輸送の挑戦』JR 北海道(2001/3),p.13]